NEWS

第29回 ナショナル・トラスト全国大会

3月10日、東京・秋葉原において、ナショナル・トラスト全国大会を開催いたしました。当日は、朝方に思いがけない雪が降り、足元の悪い中ではありましたが、各地で活躍するトラスト団体のメンバーや賛助企業、個人の支援者などが一堂に会しました。

開会挨拶の後、東日本大震災で被災した「はちのへ小さな浜の会」への種差（たねさし）海岸募金の目録贈呈が行われ、会からはその後の復興の様子、これからの三陸復興国立公園構想に基づく展望について報告がありました。さらに、活動団体報告として、「NPO法人カラカネイトトンボを守る会」から、地元の高校生や市民が一体となって活動している様子とともに、抱えている問題点の報告もあり、参考となる情報を共有することが出来ました。後半の交流会の部では、参加者の皆様から様々な情報発信や提案があり、盛会のもとに終了いたしました。

日時　2012年3月10日（土）13:00～16:30
場所　秋葉原ハンドレッドスクエア倶楽部
主催　社団法人日本ナショナル・トラスト協会
後援　環境省

開会挨拶

(社)日本ナショナル・トラスト協会　会長 池谷奉文

経済力がある金持ちの国が先進的であるという考え方から、持続可能な社会を築いている国こそ、本当の意味で豊かであるという考え方へと、世界の価値観は変化しています。コスタリカは、国土の20％に減ってしまった自然を20年かけて50％にまで回復させました。さらに70％まで増やしたいと言っています。過去、発展途上国といわれたコスタリカは持続可能な社会という評価では先進国です。そういう意味では、日本は発展途上国になってしまいました。健全な生態系こそが、持続可能な社会を作るということが常識となっています。トラスト活動は、これからの国づくりの重要な役割を担っています。

来賓挨拶

環境省　大臣官房審議官 小林正明氏

三陸復興国立公園の構想が具体化してきました。青森から福島の北部まで、山、川、里、海をつなぎ、人と自然のネットワークで東北の復興の力になればと思います。ナショナル・トラスト活動を支援する法律も徐々に出来てきていますので、環境省としましても、土地を確保するという自然を守る王道ともいえるナショナル・トラストを、今後も支援していきたいと思います。

事業報告

(社)日本ナショナル・トラスト協会
事務局長 関健志

2011年度に取り組んだ事業について、ご報告しました。

種差（たねさし）海岸募金贈呈式

昨年3月11日の東日本大震災により、青森県八戸市の種差海岸には6mを超える津波が押し寄せました。

この津波で、「はちのへ小さな浜の会」の活動拠点であり、浜を訪れる人々にとっての情報センターでもあった浜小屋が、20年近く蓄積してきた資料や会員名簿、活動に必要な道具や機材もろとも流されてしまいました。

そこで昨年、「はちのへ小さな浜の会」の復興へ向けた活動を応援するため「種差海岸募金」を設置し、全国から510,755円が集まりました。ご協力いただいた皆様、どうもありがとうございました。

「震災から一年を経た被災地の現状」
はちのへ小さな浜の会　会長代行 川井忠彦氏

浜小屋の再建については、JR貨物の中古コンテナを、多くの人の協力で購入し、現在自力で設置場所の整地などを行っているところです。私たちの会では毎年、地元漁協と共に種差海岸で地引き網体験イベントを行っていましたが、その地引き網の船が大津波で2艘流失してしまいました。その後、1艘だけ岩手県沖で発見されましたが、その船の中にはなんと、地引き網が残っていたのです。一度はあきらめた地引き網体験ですが、地元の活性化のために是非今後も続けていこうということになりました。三陸復興国立公園のプロジェクトも具体化しつつあり、「東北海岸トレイル」は八戸の復興の大きな後押しとなります。事業の進展をしっかりと注視し、意見をぶつけ合いながら、より良い方向へ進めたいと思っています。

活動報告

「未来へ育む身近な自然、篠路福移（しのろふくい）湿原」
NPO法人カラカネイトトンボを守る会　事務局長 綿路昌史氏

トラストで守っている湿原の面積は狭いですが、守る熱意は日本一です。湿原保全のための調査や作業、啓発活動を高校生からシニアまで、力を合わせてやっています。今は、急激な埋め立ての脅威にさらされている湿原を守り原状回復を図るため、行政や弁護士たちと連携して活動しています。大人の背中を見て、若者たちが意欲的に活動し、未来の子供たちにトンボの飛び交うふるさとを残すために、現代の子供たちがいきいきと頑張っていることが、私たちの誇りです。

交流会

今回は例年と趣向を変えて、トラスト団体の方に差し入れていただいた各地の地酒や名産品を楽しみながら交流するという企画を立てました。北は北海道から、南は岡山まで、日本酒あり、ワインあり、珍味あり。近況報告とともに、地元の名産を紹介していただき、和気あいあいと交流を深めることが出来ました。